



「本質的な問い」が授業を変える

児童生徒が深く考え、学ぶ意義を実感するような「問い」のある授業を、実践してみたくありませんか？

それぞれの「問い」に正解の形はありません。単元を通して児童生徒に考え深めさせたいことを、「問い」として言葉により書き表すことは、授業づくりに有効です。なぜなら、その「問い」を立てることにより、児童生徒に何をどのように考えさせ、身に付けさせたいと考えているのかを教師自身が自覚し、明確にすることができるからです。また、「問い」により児童生徒の思考が深まっていく姿を予想し、具体的にどのような指導や支援が必要になるかを考えることが、児童生徒の学びをファシリテートすることにつながります。

「単元構想シート」を通して、授業を見つめ直したり、互いの授業観等を語り合ったりしながら、教師も児童生徒もワクワクする授業を目指しませんか。

「単元構想シート」を完成させることが目的（ゴール）ではなく、考えるプロセスを大切にしていきたいのです。



実現を目指す教員の姿

- 質の高い「問い」を設定する力
- 単元を構想する力
- 児童生徒の学びをファシリテートする力
- デジタル機器を活用する力

令和3年度 広島県教育資料

「『本質的な問い』による授業改善」
（「単元構想シート」の活用）は

こちら



児童生徒のどんな姿や言葉に出会った時に、
うれしい気持ちになりますか？



やってみよう!

私たちも立ててみました

「単元構想シート」をつくる上で留意したこと

～指導主事からのメッセージ～



社会科

国語科

- 言語活動を通して資質・能力を育成することに留意して構想します。
- 〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕を関連させて構想します。



算数・数学科

- 各領域の系統性を意識しながら、教科の本質をとらえます。
- 各領域の意義と単元の学習内容のつながりを意識します。
- 数学的活動を通して、算数・数学科において育成を目指す資質・能力を身に付けられるようにします。



理科

- 理科の見方・考え方や領域等を意識します。
- 小学校における問題解決の過程、中学校における探究の過程を意識し、児童生徒が主体となる単元を構成します。



- 「社会的な見方・考え方」（中学校においては各分野の見方・考え方）を児童生徒が働かせるような問いを設定します。
- 課題を追究したり解決したりする活動を通した学習活動で「単元計画の構想を立てる」を考えます。
- ①～③の問いを往還し、「公民としての資質・能力の基礎」を育成することにつながる単元となっているかを吟味します。



音楽科

- 音楽科では、「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」の育成を目指しています。
- 音楽科は活動を通して学ぶ教科であることから、音楽活動（歌を歌う、楽器を演奏する、音楽をつくる、音楽を聴く）を通して、実感を伴った学びになるよう題材を構想することが大切です。
- 「個別の問い」では、「音楽的な見方・考え方」を働かせることを促す問いを立てます。



図画工作科・美術科

- 目の前の子供たちにとって、将来、生活や社会の中の色や形と豊かに関わるためには何が大切なのか、考えながら「本質的な問い」を立てることが大切です。
- 図画工作科は活動を通して学ぶ教科であり、表現及び鑑賞の活動に相互に働きかけながら、学年の目標を達成していくことができるような「題材を貫く問い」を立てることが大切です。
- 「指導事項」や「共通事項」を基に「個別の問い」を立てます。



家庭科、技術・家庭科（家庭分野）

- 「本質的な問い」は、家庭科や技術・家庭科の目標、家庭分野の目標を踏まえて設定します。
- 「題材を貫く問い」は、児童生徒が、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら題材のねらいに迫っていけるよう意識することが大切です。
- 題材で指導する項目及び指導事項を確認し、問いのつながりを意識して設定します。



体育科・保健体育科

- 「本質的な問い」について
小学校体育科保健領域及び中学校保健体育科の保健分野においては、生涯にわたる健康の保持増進を実現することが目標になると考えます。
- 「単元を貫く問い」について
小学校体育科保健領域及び中学校保健体育科においては、単元をさらに細分化した小単元をこれとして考えます。
- 「個別の問い」及び「単元計画の構想を立てる」について
小学校では、思春期における心身の変化を理解し、肯定的に受け止めた上でどのように対応すればいいのかを思考し、実践的に明るく楽しい生活を営むことができる態度を養うことができるようにします。
中学校では、思春期における心身の機能の発達を科学的に理解し、どのような意思決定や行動選択をすればいいのかを思考し、健康を保持増進することができる態度を養うことができるようにします。



技術・家庭科（技術分野）

- 「技術の発達を主体的に支える力や技術革新を牽引する力の素地となる、技術を評価、選択、管理・運用、改良、応用することによって、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成」がねらいです。
- ものづくりなどの技術に関する製作、制作、育成や、実習や観察・実験、調査等の実践的・体験的な活動ができるように題材を構成します。
- 生徒の発達の段階を踏まえるなどして、学習の適時性を考慮するとともに、技術分野の学習に適した学習過程を踏まえて、主体的・対話的で深い学びを展開できるよう意識します。



外国語科

- 外国語活動・外国語科における「本質的な問い」は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」に迫る問いに関連付けるよう意識します。
- 「単元を貫く問い」は、単元で扱う学習指導要領の各領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）の目標に関連付けるよう意識します。
- 「個別の問い」は、指導事項を踏まえ、単元を通して身に付けるべき資質・能力に関連付けるよう意識します。



道徳科

- 学校の道徳教育の重点目標や内容項目を参考に、「本質的な問い」を考えます。
- 児童生徒の発達の段階や実態、教材の内容を踏まえて、「授業を貫く問い」を考えます。
- 道徳科の特質を踏まえて「個別の問い」を考えます。
- 関連する教科や行事等を、別葉や年間指導計画を基に洗い出し、それぞれにおいて、関連付けて考えさせたい道徳的価値について明確にしていきます。



生活科

- 生活科で目指している姿は、児童が自ら自立し生活を豊かにすることです。
- 9項目の構成要素とその内容のまとまりを意識して、問いのつながりを意識します。
- 直接かかわる活動や体験を重視し、児童が自分の思いや願いを生かし、主体的に活動ができるように単元を構成します。



総合的な学習の時間

- 総合的な学習の時間で目指している姿は、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく」です。
- 「目標を実現するにふさわしい探究課題」を参考に、本単元で設定する探究課題の特性をもとに、問いのつながりを意識します。
- 探究的な見方・考え方を働かせて、教科等横断的・総合的な学習に取り組むという総合的な学習の時間だからこそ獲得できる知識・技能等は何かということに着目します。
- 学び手としての児童生徒の有能さを引き出し、児童生徒の発想を大切に、課題の解決や探究的な学習が発展的に繰り返されるよう単元を構成します。

